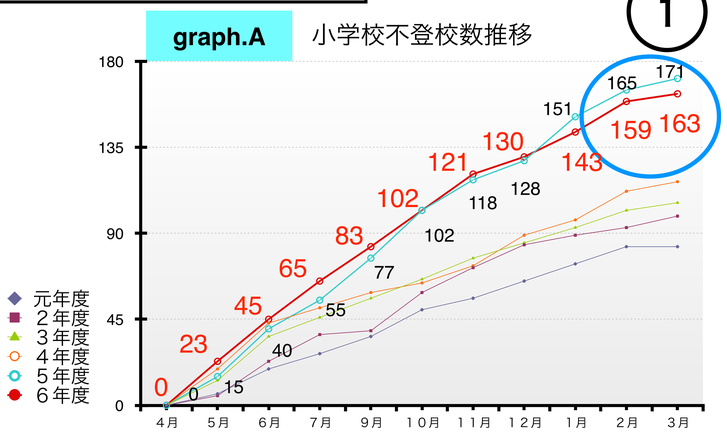
令和７年８月25日（金）
総合教育会議資料　学校教育課

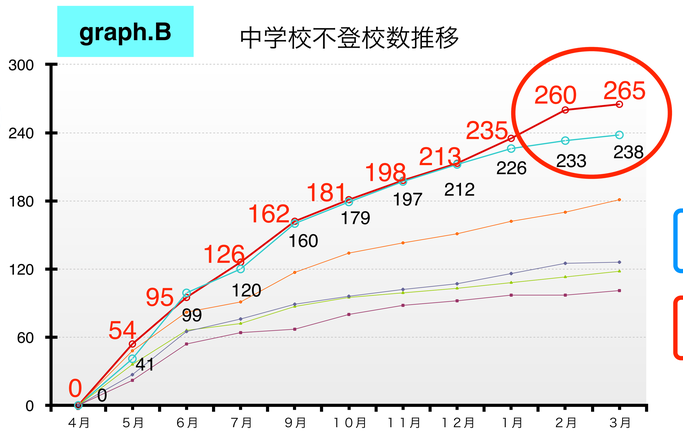
資料３

不登校対応の現状と課題　～ぷらっとホーム及び校内サポート教室の支援状況と今後の体制～

不登校対応の現状と課題

①





小学校で前年度比減。

小中合計では依然増加。

長期化、困難化するケースも。

②

不登校数び新規不登校数

小学校	不登校	新規
R5	171	102
R6	163	75
中学校	不登校	新規
R5	238	95
R6	265	100

小学校で新規が前年度比減。

学年別不登校児童生徒数（H30～R6）

	小学校						中学校		
	1年生	2年生	３年生	４年生	５年生	6年生	1年生	2年生	３年生
H30	2	7	8	15	18	12	20	45	30
R元	1	7	14	17	18	26	21	43	62
R2	3	8	13	20	29	26	25	37	39
R3	2	6	5	15	34	44	25	46	47
R4	8	5	16	14	32	42	63	49	69
R5	8	18	20	32	40	53	69	103	66
R6	8	26	27	23	40	39	76	100	89

小学校低学年に大きな課題。

令和６年度、小学６年生と中学３年生で、不登校数が前年度比減（同一集団）となった。

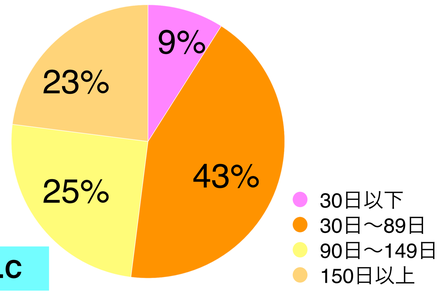
ぷらっとホーム及び校内サポート教室の状況

③

ぷらっとホームの状況

	令和４年度	令和５年度	令和６年度
利用した児童生徒数	37名 ・小学生20名 ・中学生17名	46名 ・小学生21名 ・中学生25名	40名 ・小学生15名 ・中学生25名
中学校３年生進学率	100%	100%	83%
学校復帰児童生徒の割合	40% 15名（年度内６名）	43% 20名（年度内７名）	38% 15名（年度内４名）

R6利用者の学校を欠席した日数の割合



graph.C

【ぷらっとホームの特徴】
- 創作、体験活動等、多様な学びの機会を保障。
- 個に応じた学習やカウンセリング等の充実。

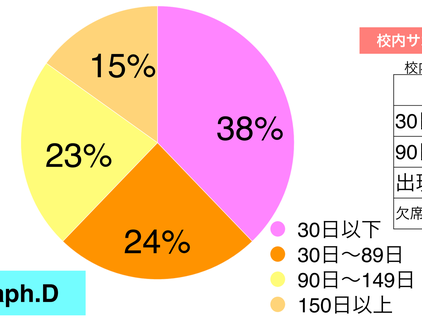
→ より個に応じた支援を実現している。

④

校内サポート教室の状況

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
設置校数	３校	５校	８校	11校	14校
利用した児童生徒数	12人	37人	88人	124人	74人 （R7.6.1時点）

R6利用者の学校を欠席した日数の割合



graph.D

（参考）

校内サポート教室新設校（A校）の状況

校内サポート教室新設小学校の前年比

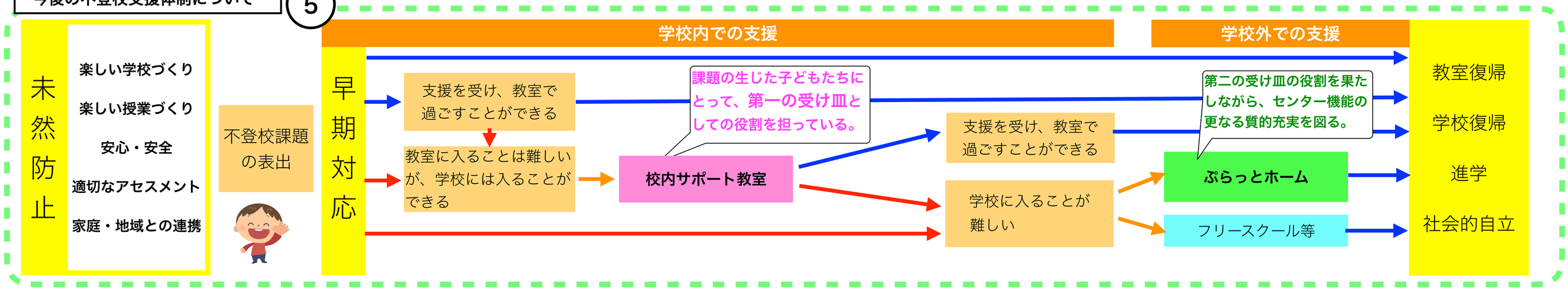
	R5	R6
30日以上	25	19
90日以上	7	4
出現率	4.85	3.63
欠席の平均日数	81.2	73.1

→ 状況改善

【校内サポート教室の特徴】
- 校内の居場所であり、成長できる場のひとつ。
- 支援員の他、担任等、学校体制の中で対応が可能。

→ より早期の支援を実現している。

校内サポート教室は、より早期から、柔軟に活用できる支援の場である。一方ぷらっとホームは、より豊富な支援方法と保護者を含めた丁寧かつ慎重な対応が可能である。子どもたちの居場所、学びの場として自ずとそれぞれの担う役割が明確化され、結果として支援の幅が拡がってきている。

今後の不登校支援体制について

⑤